

「新潟市工之跡」石碑保存について



バス停近くにあった石碑



校章は、工業の「工」の字六つを六角形に図案化し、雪国を象徴的に表し、中央に穩健着実型の「工」の文字を配して作られた。これは、開校前の木工試験場長の竹内氏が考え、初代校長の美旗実之助氏が図案化したものです。



今はなき、バス通りにあった解体前の旧市立工業高等学校の校舎

「新潟市工之跡」石碑建立と移転の経緯

◎ 新潟市下町に、唯一の新潟市立工業高等高校が開校

昭和 20 年 3 月 新潟市立工業高等高校として開校

(新潟市鉄工組合の解散により、その建物や
機械器具を新潟市が譲り受けて開校、生徒
50 名、専任職員 3 名、講師 8 名)

- 〃 21 年 4 月 新潟市木工試験場を買収、本拠とする
- 〃 23 年 3 月 第一期卒業生 40 名
- 〃 23 年 4 月 新潟市立工業高等学校と改称し、定時制課程も設置
- 〃 24 年 2 月 国立倉庫解体の用材を用いて体育館、普通教室を作る
- 〃 25 年 4 月 国内唯一の造船科を新設 生徒 40 名
- 〃 26 年 3 月 校歌制定 作詞：大木 惇夫、作曲：岡本 敏明
- 〃 31 年 4 月 機械科 1 学級増設
- 〃 〃 第二代目磯貝校長により「校訓」が決まる
- 〃 32 年 4 月 定時制に機械科 1 学級増設
- 〃 34 年 4 月 電気科 1 学級新設
- 〃 36 年 4 月 定時制に電気科 1 学級新設
- 〃 38 年 3 月 改築校舎本館完成
- 〃 39 年 6 月 16 日 新潟地震発生、津波と液状化により付近一帯床上浸水となる
- 〃 39 年 6 月 30 日 授業再開
- 〃 42 年 10 月 新体育館完成
- 〃 44 年 9 月 新校舎増設 1 期工事完成
- 〃 46 年 10 月 創立 25 周年記念式典举行
- 〃 48 年 4 月 新教育課程発足機械科 1 学級増設
- 〃 50 年 10 月 創立 30 周年記念式典举行
- 〃 53 年 12 月 市議会にて市立高等学校整備が決まる
- 〃 54 年 1 月 市立白山高校、市立工業高等学校の両校で検討
- 〃 55 年 4 月 新潟市立高志高等学校発足
- 〃 56 年 3 月 定時制閉課程記念式举行
- 〃 56 年 11 月 閉校記念碑「新潟市工之跡」碑除幕式
本校正面玄関脇の庭に、裏面に校章、校名、校歌、沿革、卒業生数等を記す
書体は、大泉二郎氏（昭和 40 年定時制機械科卒）作成
- 〃 57 年 3 月 最後の卒業証書授与式



新潟市木工試験場校舎



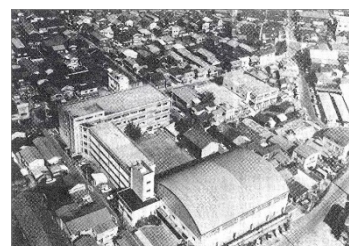
新潟市工校旗



改築となった本館校舎



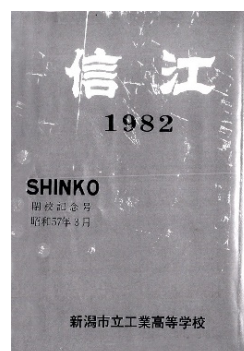
バス道路も水深 30 cm 程であった



昭和 57 年空撮

卒業生総数 6,956 名

全日制課程	4,982 名	定時制課程	1,974 名
機械科	2,957 名	機械科	1,323 名
電気科	1,462 名	普通科	258 名
造船科	563 名	電気科	393 名



昭和 57 年 3 月発行の閉校記念号

校歌

大木 惇夫 作詞
岡本 敏明 作曲

一、飯豊山 そびゆかたに
朝雲の のぞみは高し
新らしき工の業を
まなびなむ 践みて修めて
人の老の さいはひのため
ああわれら青空を慕はばや

二、信濃川 うらほす土に
緑葉の 息吹きは清し
美しき 智慧みつ珠を
みがきなむ 思ひひそめて
くらき世の よろこひのため
ああわれらおひをかこさばや

三、大海の ととろく潮に
若人の あこがれ熱し
たくましく 夢の道を
つらぬかむことつくりて
人の老の やすらひのため
ああわれら戸差に祈らばや

新潟市工校歌

作曲：岡本 敏明(おかもと としあき)

明治 40 年 3 月 19 日～昭和 52 年 10 月 21 日

昭和時代に活躍した日本の音楽家(作曲家)、宮崎市生まれ。父親は同志社神学校牧師。

大正 13 年 福島中学(現・福島県立福島高等学校)卒業。

昭和 4 年 東京高等音楽院(現・国立音楽大学)卒業一回生。玉川学園創立に携わる。

昭和 52 年 70 歳で没する。

代表曲：「どじょっこふなっこ」、玉川学園校歌(1929 年)など

作詞：大木 惇夫(おおき あつお)

明治 28 年 4 月 18 日～昭和 52 年 7 月 19 日

日本の詩人・翻訳者・作詞家。本名は軍一。1932 年までは篤夫(あつお)と名乗っていた。

太平洋戦争(大東亜戦争)中の戦争詩で有名だが、児童文学作品他、「国境の町」などの歌謡曲、「大地讃頌」をはじめとした合唱曲、軍歌、社歌、校歌、自治体歌の作詞も多い。

1967 年 紫綬褒章、1972 年 勲四等旭日小綬章。

代表曲に東海林太郎の「国境の町」、「戦友別盃の歌」など

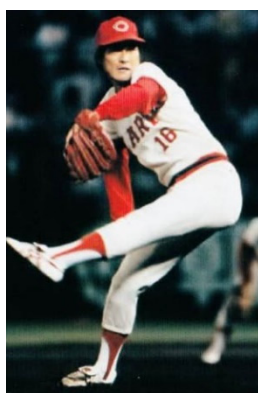
新潟市立工業高等学校卒業生

★佐藤 忠男氏 文化功労者



日本の評論家、編集者
日本映画大学名誉学長
1989 年、第 7 回川喜多賞
1996 年、紫綬褒章を受章
2019 年、文化功労者
2022 年死去、91 歳

★三輪 悟氏 プロ野球選手



甲子園県予選準決勝に進む
1970 年西鉄ライオンズ入団
1975 年広島東洋カープへ移籍
球団史上初のリーグ優勝に貢献
自叙伝「マウンド人生」を出版
2021 年死去、75 歳

★久仁 京介氏 作詞家



(社)法人日本作詩家協会副会長
1967 年、作詞家デビュー
2015 年第 48 回日本作詩大賞受賞
新沼謙治「津軽恋女」
日吉ミ「男と女のお話」
福田こうへい「南部蟬しぐれ」
など多数の歌手の作詞を作る

★三林碩郎、第 86 代新潟県県会議議長歴任 2019 年死去、72 歳

★小嶋栄吉、日本労働組合総連合会新潟連合会議議長歴任 など

「新潟市工之跡」石碑保存の会

代表 中央区附船町1丁目住人 岩間 正吉 昭和34年新潟市工卒業生 久仁 京介
中央区附船町1丁目町内会長 近藤 清 昭和40年新潟市工卒業生 加藤 功

お問い合わせ先：「新潟市工之跡」石碑保存の会 加藤 功 携帯090-4701-3910